

平成 2 2 年度
山口県教育委員会の点検・評価報告書
(平成 2 1 年度実施分)

(案)

平成 2 2 年 1 1 月
山口県教育委員会

目 次

◆点検・評価の概要	1
◆山口県教育委員会の活動状況に係る点検・評価.....	2
◆山口県教育委員会の事務事業の実施状況に係る点検・評価.....	5
<重点プロジェクト別評価結果>	
1 自立する力育成プロジェクト	8
2 確かな学力育成プロジェクト	10
3 思いやりのある豊かな心育成プロジェクト	12
4 子ども元気創造推進プロジェクト	14
5 きめ細かな指導体制づくり推進プロジェクト	17
6 学校の安心・安全と活力推進プロジェクト	21
7 県民総参加による教育推進プロジェクト	24
8 家庭教育応援プロジェクト	26
9 文化にふれあい文化に親しむ環境づくり推進プロジェクト	28
10 「おいでませ！山口国体」等を契機とした県民スポーツ推進プロジェクト...	30

点検・評価の概要

1 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第27条の規定により、教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行（以下「事務事業」という。）の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りながら点検・評価を行い、報告書を作成し議会に提出の上、公表することとされている。

山口県教育委員会は、法の趣旨を踏まえ点検・評価を行い、その結果を公表することで、効果的な教育行政の推進と県民への説明責任を果たすこととする。

2 点検・評価の対象

- (1) 山口県教育委員会の活動状況
- (2) 山口県教育委員会の事務事業の実施状況
 - ※「山口県教育ビジョン 第3期重点プロジェクト推進計画」の施策体系に基づき、点検・評価を実施。

<参考：根拠条文>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

山口県教育委員会の活動状況 に係る点検・評価

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催状況

山口県教育委員会は平成21年度に、教育委員会会議を13回開催し、議案75件、報告事項23件、協議事項9件の審議等を行った。

【教育委員会会議の開催状況】

回	開催月日	議案	報告事項	協議事項	その他	備考
1	平成21年4月30日(木)	4	3	1		
2	平成21年5月21日(木)	5	1	1		
3	平成21年6月18日(木)	5	1	1		
4	平成21年7月29日(木)	2	2			移動教育委員会
5	平成21年8月27日(木)	5	4	3		
6	平成21年9月17日(木)	13	1			
7	平成21年10月8日(木)				1	臨時会議(委員長選挙)
8	平成21年10月29日(木)	7	3			
9	平成21年11月26日(木)	7	3			
10	平成21年12月17日(木)	2		1		
11	平成22年1月27日(木)	1	1			
12	平成22年2月26日(金)	14		2		
13	平成22年3月23日(火)	10	4			
計		75	23	9	1	

※移動教育委員会の開催(平成21年7月教育委員会会議)

県庁内で行う教育委員会会議を県内各地域に出向いて行い、議案審議の他、地元参加者を含めて意見交換を行うことで、地域の声を今後の教育行政に反映させる、移動教育委員会を平成16年度から開催している。

平成21年度は萩地域で開催した。

- 開催月日 平成21年7月29日(木)
- 場所 萩市田万川コミュニティセンター(萩市)
- 内容 ◆県教育委員への報告事項(2件)
◆意見交換会
テーマ:『学校運営への地域の参画について』
～コミュニティ・スクールの活用等による学校の活性化～
- 傍聴者 126人

(2) 意見交換の実施

ア 教育委員会会議における「意見交換」

教育課題への認識を深めるとともに、教育委員の意見を課題解決に反映させるため、定例の教育委員会会議の際に、重要課題について意見交換を行った。

【意見交換】

回	開催月日	意見交換テーマ
1	平成21年 5月21日 (木)	やまぐち総合教育支援センターによる支援の充実強化について
2	平成21年 6月18日 (木)	教職員のメンタルヘルス対策について
3	平成21年 7月29日 (木)	学校運営への地域の参画について
4	平成21年 9月17日 (木)	小・中学校における発達障害の児童生徒への支援の一層の充実に向けて
5	平成21年10月29日 (木)	新学習指導要領に係る山口県の取組について
6	平成21年11月26日 (木)	生徒指導の充実について
7	平成21年12月17日 (木)	新しい高等学校学習指導要領の実施に向けて

イ 教育課題等に関する「意見交換」

翌年度の予算編成等を見据え、教育課題について関係課と意見交換を行った。

○開催月日 平成21年8月20日 (木)

○場 所 パルトピア山口 (山口市)

○テ ー マ 山口県教育ビジョン～新実行計画の方向性について～ 他5テーマ

ウ 公安委員会との「意見交換」

教育委員会と公安委員会の異なる分野の連携の現状や、話し合いにより解決できる課題を取り上げ、施策に反映できるよう公安委員との意見交換を行った。

○開催月日 平成21年9月17日 (木)

○テ ー マ 「非行防止等に向けた学校と警察との連携」

(3) 県内視察等

教育委員が学校現場等の実状を把握することで、教育課題の認識を深めるとともに、教育委員会会議における審議等の活性化を図ることを目的として、種々の視察を行った。

ア 巡回視察(平成21年度新規)

共通のテーマのもと、原則として委員が2人一組になって県内各地域を巡回視察した。平成21年度は「学力向上」をテーマとし、柳井市立柳井小学校他11の小学校及び高等学校を視察した。

視察年月日	視察先	
平成21年 6月22日 (月)	柳井市立柳井小学校	山口県立柳井高等学校
	山口市立大殿中学校	山口県立山口高等学校
平成21年 6月25日 (木)	下関市立川中西小学校	山口県立下関西高等学校
平成21年10月19日 (月)	周南市立秋月小学校	山口県立徳山高等学校
平成21年10月21日 (水)	宇部市立小羽山小学校	山口県立宇部高等学校
平成21年10月27日 (火)	萩市立椿東小学校	山口県立萩高等学校

イ 県内視察

教育委員全員で教育機関の視察を行った。平成21年度は、巡回視察と同じくテーマを「学力向上」とし、山口県立高森みどり中学校、高森高等学校を訪問し、授業参観とともに、保護者及び学校関係者を交えた意見交換を行った。

ウ 随時機動的な視察

各委員の希望に応じて個別に学校訪問等を行うもので、平成21年度は2校を訪問した。

視察年月日	視察先（視察に係るテーマ）
平成22年2月10日（水）	山口県立下関南総合支援学校 （特別支援教育の推進）
平成22年2月 3日（水）	周南市立住吉中学校 （コミュニティスクール、小中連携教育の推進）

（4）その他の活動

ア 各種会議出席

全国都道府県教育委員会連合会総会などの全国会議や、中国5県教育委員会委員全員協議会等の会議出席、県市町教育委員長・教育長会議等の会議開催を通じて、教育行政に関する様々な情報を収集し、他の教育委員と意見交換を行った。

イ 情報発信

教育委員会会議や学校視察など教育委員会の活動の概要を「教育委員会だより」としてホームページに掲載するとともに、教育委員会会議の議事録の要旨をホームページに掲載し、情報発信に努めた。

ウ 事前協議・情報提供等

毎月の教育委員会会議の前後に、条例改正や予算などの案件に係る事前協議や、制度改正、社会問題や事件などの情報提供を受け、教育委員会会議における議論を深めることに努めた。

2 教育委員会の活動の総括

- ・ 例月・臨時の会議で様々な議案審議や協議を行う中で、重点プロジェクト推進計画や高校再編計画など、教育行政の基本方針等を決定した。
- ・ また、教育委員の識見を各施策に活かすため、現下の教育課題について事務局と意見交換を重ねた。
- ・ さらに、地域の声や教育現場の実態を把握し、これを教育行政に反映させるため、地域に出向き、県民の方々に参加いただく移動教育委員会を継続的に開催するとともに、学校等教育現場の視察機会の拡充を図った。
- ・ 今後、本県の実情に応じた教育振興を一層推進していくため、これら取組をさらに充実していく必要がある。

山口県教育委員会の事務事業の 実施状況に係る点検・評価

事務事業の実施状況に係る点検・評価について

平成21年度の取組について、本年度に策定した「山口県教育ビジョン 第3期重点プロジェクト推進計画」の着実な推進を図る観点から、その施策体系に沿って点検・評価を行い、取組の改善・見直しを進めていく。

1 点検・評価の方法

評価に当たっては、できる限り定量的な状況を把握しながら、重点取組事項の進捗状況と夢チャレンジ指標の達成状況を点検し、10の重点プロジェクト毎に評価した。

(1) 点 検

①重点取組事項の進捗状況

取組内容の実績等を踏まえ、各重点取組事項毎の進捗状況を3段階(☆～☆☆☆)で示し、得点を付与※表1、それを平均したものを重点取組事項全体の進捗状況として3段階(a～c)※表2で示した

- [☆☆☆] 取組は順調
- [☆☆] 取組の一部に課題はあるが、概ね順調
- [☆] 取組に課題あり

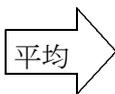
②夢チャレンジ指標の達成状況

各指標毎に達成状況を3段階(☆～☆☆☆)で示し、得点を付与※表1、それを平均したものを夢チャレンジ指標全体の達成状況として3段階(a～c)※表2で示した

- [☆☆☆] 達成済み
- [☆☆] H24目標値に向け、概ね順調
- [☆] H24目標値の達成に向け、加速化が必要

《表1》

進捗状況	得点
☆☆☆	3
☆☆	2
☆	1



《表2》

平均点	点検結果
2.5超 ～ 3	a
1.5超 ～ 2.5以下	b
1 ～ 1.5以下	c

(2) 評 価

「①重点取組事項の進捗状況」と「②夢チャレンジ指標の達成状況」を以下の「重点プロジェクトの評価表」に当てはめ、各重点プロジェクトを評価した。

		重点取組事項の進捗状況		
		a	b	c
夢 指 標 達 成	a	A	B	
	b		C	
	c		C	

- A：順調
- B：一部に課題はあるが概ね順調
- C：取組の改善・強化が必要

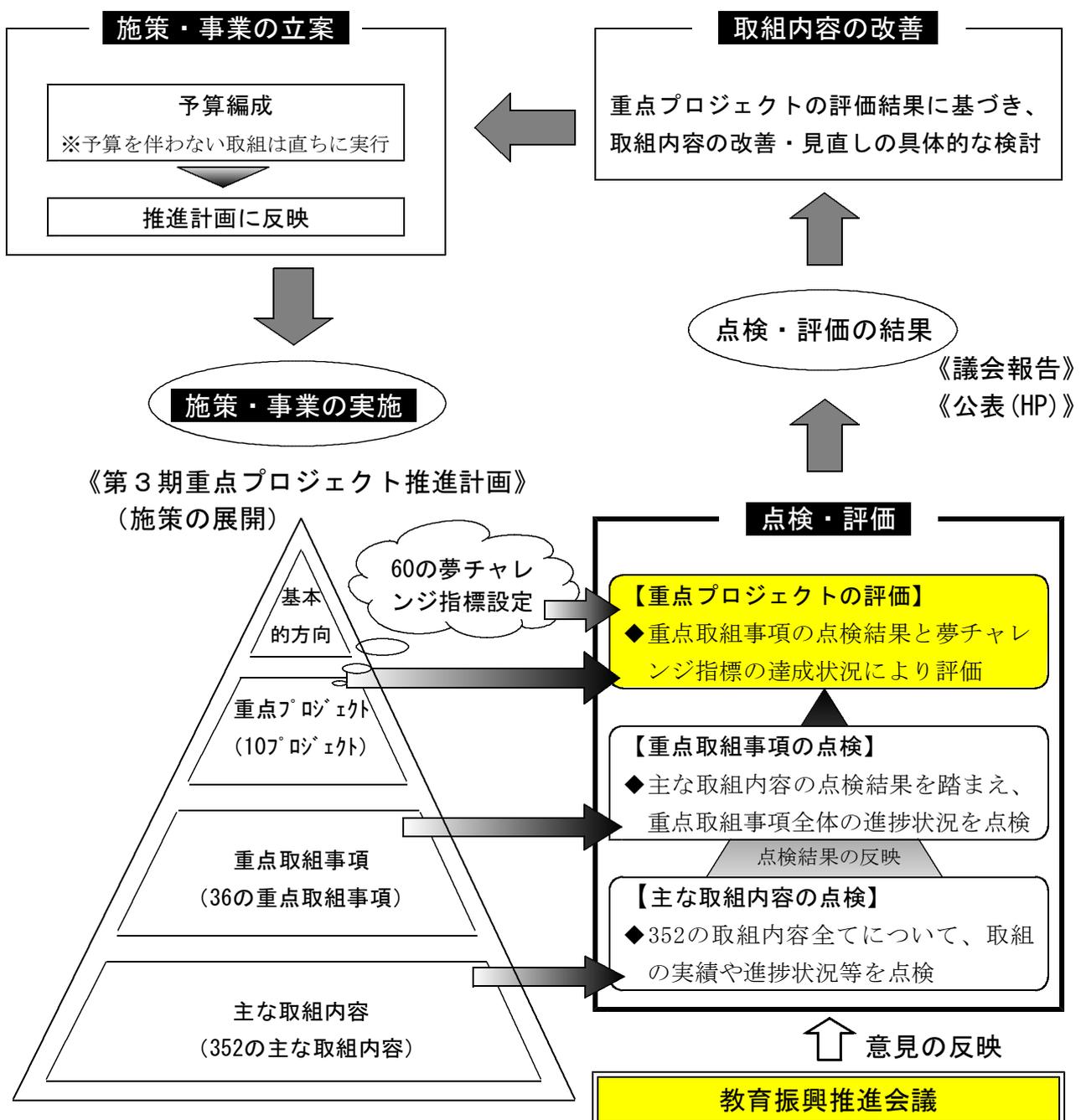
2 点検・評価の流れ

- 重点取組事項の進捗状況と夢チャレンジ指標の達成状況について所管課(室)で点検
- 教育力向上推進本部において、点検結果を踏まえた各プロジェクトの総合評価を実施した後、教育振興推進会議の意見・提言を踏まえた最終案を教育委員会へ提案
※教育力向上に向けた主要施策の策定及び進行管理などのために設置している庁内会議

3 評価結果の反映

評価結果を適切に予算、政策立案、組織改正などに反映させ、第3期重点プロジェクト推進計画の着実な推進を図る。

[推進計画の進行管理のイメージ]



評価結果一覧

基本的 方向	重点プロジェクト	重点取組 事項	夢チャレンジ 指標	総合評価	
				評価	概要
Ⅰ 一人ひとりの学ぶ力を育み、自分らしさを生かして未来に羽ばたく力を育てます	1 自立する力育成プロジェクト	b	b	B	新しい学習指導要領を踏まえた教育内容の充実を図る取組は順調に進捗。「高校生の進路未決定者の割合」減少に向けた取組の充実が必要。
	2 確かな学力育成プロジェクト	b	b	B	確かな学力の育成に向けた取組は概ね順調に進捗し、全国学力・学習状況調査(H22.4)の平均正答率も小中ともに全国平均を上回る。今後は家庭や地域等と連携した取組の強化が必要。
Ⅱ 豊かな心や健やかな体づくりを進め、子どもたちの元気を創造します	3 思いやりのある豊かな心育成プロジェクト	b	b	B	各取組は概ね順調に進捗しており、今後は「家庭教育の指針」を活用した家庭・地域と連携した道徳教育やAFPYの活用等による体験活動の充実を図ることが必要。
	4 子ども元気創造推進プロジェクト	b	c	C	「遊び・スポーツ」「食育」「読書」の取組は概ね順調。今後は「家庭教育の指針」の活用等による運動・読書習慣の定着化や朝食摂取率の改善を図ることが必要。
Ⅲ 子どもたちの豊かな学びを支えるため、質の高い教育環境づくりを進めます	5 きめ細かな指導体制づくり推進プロジェクト	b	b	B	少人数教育の推進等は順調に進捗しているものの高校生及び総合支援学校産業科生徒の就職(決定)率は厳しい状況。今後は、求人開拓等の緊急的な対策に加え、早い時期からのきめ細かな就職支援に取り組むことが必要。また、不登校対策に係る取組の強化も必要。
	6 学校の安心・安全と活力推進プロジェクト	b	c	C	学校運営、指導体制の充実を図る取組は着実に進捗しているものの学校施設の耐震化は全国に比べ取組が遅れている。県立学校は取組の加速化を図り、市町立小・中学校は市町の取組を支援していくことが必要。
Ⅳ 家庭や地域の教育力を高め、連携・協力を強化し、県民総参加の教育の実現に向けて取り組みます	7 県民総参加による教育推進プロジェクト	b	b	B	地域社会が参画できる仕組みづくりや生涯学習の環境づくりは着実に進捗。今後は生涯教育の成果を生かしながら学校と地域が一体となって学校教育活動を支援していくことが必要。
	8 家庭教育応援プロジェクト	b	b	B	家庭教育を応援する人づくりや拠点づくりなど支援体制整備等は順調に進捗。今後は「家庭教育の指針」の活用等により家庭教育の充実に取り組むことが必要。
Ⅴ 夢や感動があふれ、人と地域が輝く、豊かな文化と活力あるスポーツの振興を図ります	9 文化にふれあい文化に親しむ環境づくり推進プロジェクト	a	b	B	文化にふれあい親しむ環境づくりは着実に進捗。今後は文化にふれる機会の充実や文化財保護の意識の向上を図ることが必要。
	10 「おいでませ!山口国体」等を契機とした県民スポーツ振興プロジェクト	b	c	C	県民がスポーツに親しむ環境づくりや競技力向上を図る取組は着実に進捗。今後は生涯スポーツ社会の実現につなげるための推進体制づくりについて検討することが必要。

<重点プロジェクト別評価結果>

- 1 自立する力育成プロジェクト
- 2 確かな学力育成プロジェクト
- 3 思いやりのある豊かな心育成プロジェクト
- 4 子ども元気創造推進プロジェクト
- 5 きめ細かな指導体制づくり推進プロジェクト
- 6 学校の安心・安全と活力推進プロジェクト
- 7 県民総参加による教育推進プロジェクト
- 8 家庭教育応援プロジェクト
- 9 文化にふれあい文化に親しむ環境づくり推進プロジェクト
- 10 「おいでませ！山口国体」等を契機とした県民スポーツ推進プロジェクト

重点プロジェクト名

1 自立する力育成プロジェクト

《 推 進 方 向 》

新しい学習指導要領を踏まえた教育内容の充実を図り、子どもたち一人ひとりが自己にふさわしい在り方や生き方を実現しようとする意欲や態度、主体的に進路を選択できる能力等を身に付け、将来、社会の一員として、自立してたくましく生きていく力を育てます。

21年度の取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

① 新学習指導要領を踏まえた教育内容の充実	進捗状況	☆☆
<p>○3つの基軸による山口県らしい教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・22年度からの実践に向け、学校での取組を促進する「新学習指導要領実施上の手引き」の作成に着手 (H22.12月配布予定)。 <p>○教育内容の充実に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山口県伝統・文化教材集」の作成や新学習指導要領に対応した実践的研究を計画的に進めるとともに、各教科等の研修を積極的に実施。また、指導主事等による学校訪問やモデル授業を積極的に実施し、教員の実践を啓発。 <p>[学校訪問実施校] H20:127校→H21:165校 [モデル授業実施校] 小 H20:5校→H21:28校、中 H20:0校→H21:7校</p> <p>○新学習指導要領の円滑な実施に向けた教材等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備品・教材に係る「整備状況チェックリスト」を作成・配付し、小・中学校における円滑な整備を支援。今後は、チェックリストを活用し計画的に整備を促進していくことが必要。 		
② 小学校段階からのキャリア形成の促進	進捗状況	☆☆
<p>○系統的・計画的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校における体系的・一貫的な学習プログラムの開発や、職場見学、インターンシップ等の体験学習の充実など、発達段階に応じた取組を計画的に実施。 <p>[小中連携によるキャリア教育の実施] 小 H20:20.4%→24.1%、中 H20:13.4%→H21:21.6% [職場体験実施校率] 小 H20:23.7%→H21:23.5%、中 H20:97.0%→H21:93.8% [インターンシップ実施校率] 高 H20:78.4%→H21:71.4%</p> <p>○夢をデザインするための視点に基づく各校種での教育実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・22年度からの全県的な実施に向け、新聞などを活用し「社会が求めていること」を把握することができるNIEの実践校として、小中高9校を指定し取組を展開。 <p>○教員の指導力の向上と学校と家庭・地域・産業界等の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導力向上のため、教員等を対象としたセミナー(県内4箇所)での実践的手法の研究等を実施。今後は、家庭・地域・産業界との連携強化について、地域ごとのセミナーの開催など具体的な取組が必要。 <p>[教育応援団活用状況] 体験イベント54校、職場体験259校、授業・教員研修への講師派遣75校</p>		
③ 進路指導の充実	進捗状況	☆☆
<p>○組織的、計画的・系統的な進路指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画の作成、数値目標を設定したPDCAサイクルに基づく評価・見直しについては順調に進捗。今後は、高校における個人進路資料(進路カルテ)作成の取組を拡大していくことが必要。 <p>[指導計画の作成校率] H20:90.0%→H21:92.5% [進路カルテの作成校率] H20:20.0%→H21:25.4%</p>		

○進学支援の充実

・進路説明会（中）や進学セミナー、課外授業・学習合宿（高）等の様々な取組を積極的に実施し、また、特別支援教育における個別の指導計画の作成等も概ね計画どおりに進捗。

[高校生の進学率（卒業者に占める割合）] H20：61.2%→H21：63.1%

○就職支援の充実

・就職ガイダンスの早期実施、応募前職場見学の充実、マッチングを促進するための県内就職支援員の新規配置（8名）など積極的な取組を行ったが、就職決定率は前年度比で若干低下。

[高校生の就職決定率] H20：97.6%→H21：95.6%

[就職指導専門員等による求人開拓（訪問企業数）] H20：5,546社→H21：4,191社

[県内就職支援員] 生徒との個別相談：258回

(2) 夢チャレンジ指標の状況

b

指標名		基準値 (H21.4.1)	現状値 (H22.4.1)	H24目標値	状況
I 将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合	小	87.3%	88.1%	増加させる	☆☆☆
	中	72.7%	72.6%		☆
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>○小学校6年生</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○中学校1年生</p> </div> </div>					
II	新しい視点を踏まえたキャリア教育全体計画を作成している学校の割合	(H22からの取組)		100%	—
III	地域や伝統、文化に関する学習を指導計画に位置付けている学校の割合	(H22からの取組)		100%	—
IV	高校の体験入学等に参加した中学生の人数	—	16,939人	20,000人以上	—
V	インターンシップを行った高校生の割合	—	38.4%	55%以上	—
VI	高校生の進路未決定者の割合	2.2%	2.7%	減少させる	☆
VII	専門的資格を取得した生徒（職業技術顕彰受賞生徒）の割合	15.4%	16.1%	20%以上	☆☆

評価

B

新しい学習指導要領の実施に向け、教育内容の充実を図る指導の手引きや、伝統・文化の教材集の整備などの取組は、順調に進捗している。

今後は、厳しい経済情勢の中で、「高校生の進路未決定者の割合」が減少するように、キャリア教育実践セミナーでの協議を踏まえた教員の指導力の向上や、教育応援団の活用等による小学校からのキャリア形成及び中・高の系統的な取組の促進を図るとともに、高校における個人進路資料の作成など、進路指導の一層の充実に取り組む必要がある。

重点プロジェクト名

2 確かな学力育成プロジェクト

《 推 進 方 向 》

児童生徒が社会の中で自立して生きていけるよう、基礎的・基本的な知識・技能の習得や知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、さらには、学習意欲等の育成を図ります。

21年度の取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

④ 指導の改善・強化	進捗状況	☆☆
<p>○学力向上に向けた組織的・計画的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 全小中学校で「学力向上プラン」及び「学習システム」を、全高校でシラバスを作成し、改善・充実を繰り返しながら、計画的・組織的に学力向上を推進。 <p>○PDCAサイクルによる授業改善の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践的で多様な授業研究や、児童生徒や保護者による授業評価等を活用したPDCAサイクルによる授業改善を各学校で計画的に推進。今後は、年5回以上の校内研修の実施に向け、小学校、中学校ともに取組を強化していくことが必要。 <p>○教育力向上指導員等の活用や校種間連携による取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育力向上指導員による効果的なモデル授業の実施や授業改善の質的充実を図るための小・中、中・高連携による相互授業参観、研究協議等の取組を充実強化。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[教育力向上指導員によるモデル授業] H20:29人(48回)→H21:59人(117回)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[中学校教員が授業参観した高校の割合] H20:68.8%→H21:64.5%</p> <p>○県独自の「やまぐち学習支援プログラム」等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 小3～中3までの学習教材・問題、評価問題をWeb上で提供するとともに、各校の学力の状況を県平均と比較できるシステムを開発し、学力向上対策を強化。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[「学習支援プログラム」掲載教材数等]</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">学習教材 H20:400シート→H21:460シート 評価問題 H21:182シート(新規)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[「学習支援プログラム」活用協力校数] 小学校 H21:89校(新規) 中学校 H21:45校(新規)</p>		
⑤ 家庭や地域等と連携した取組の強化	進捗状況	☆☆
<p>○家庭や地域と一体となった学力向上への取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやwebによる継続的な情報発信、学校開放日の設定など家庭・地域との一体的な取組を促進するとともに、webにより家庭で簡単に利用できる基本問題学習プリント(やまぐちっ子学習プリント)を提供するため「学習支援プログラム」のシステム改良に着手。今後は、家庭学習の習慣化を図る取組を推進していくことが必要。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)1時間以上学習する児童生徒の割合]</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">小学校 H20:54.0%(全国57.2%)→H21:56.6%(全国58.2%)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">中学校 H20:61.1%(全国65.3%)→H21:62.9%(全国66.2%)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[地域の人が自由に授業参観等ができる学校開放日を設けている学校の割合]</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">小学校 H20:77.9%→H21:82.8% 中学校 H20:78.0%→H21:75.8%</p> <p>○博物館等と学校・地域の連携による学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館専門職員による学校への出前授業や館内授業、県民も対象とした体験教室等により学習機会の充実を図るとともに、教員を対象とした研修講座の実施等の学習支援を推進。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[教職員対象博物館1日研修の実施回数] H20:2回(37人)→H21:2回(30人)</p>		

(2) 夢チャレンジ指標の状況

b

指標名		基準値 (H21.4.1)	現状値 (H22.4.1)	H24目標値	状況
I 全国学力・学習状況調査平均正答率 (H22値は文部科学省が公表した推計値から算出)	小	64.8% (全国66.0%)	72.5% (全国72.0%)	全国平均を上回り更に向上	☆☆☆
	中	69.6% (全国68.3%)	66.6% (全国65.5%)		☆☆☆
II 授業研究を伴う校内研修を実施している学校の割合 (年5回以上)	小	79.4%	76.7%	100%	☆
	中	60.3%	64.5%		☆
	高	—	56.3%		—
III 児童生徒による授業評価を実施している学校の割合	小	91.8%	96.6%	100%	☆☆
	中	96.4%	100%		☆☆☆
	高	100%	100%		☆☆☆
IV 自校の学力の状況等に関する情報を公表している学校の割合		—	100%	100%	—
V 博物館の出前授業、館内授業の年間利用者数		12,621人	13,789人	14,000人以上	☆☆

評価

B

基礎的・基本的な知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力、さらには学習意欲等の育成など確かな学力の育成に向け、学力向上プランの作成や児童生徒による授業評価等による授業改善は、概ね順調に進捗している。

また、H22年4月に実施された全国学力・学習状況調査では、平均正答率が小・中学校ともに全国平均を上回るなど、改善方向にある。

今後は、授業研究を伴う校内研修などPDCAサイクルによる授業改善の充実・強化を図るとともに、「家庭教育の指針」等の活用による家庭での学習習慣の定着や、積極的な授業公開による地域との連携強化など、学校と家庭や地域等が一体となった取組を強化する必要がある。

重点プロジェクト名

3 思いやりのある豊かな心育成プロジェクト

《 推 進 方 向 》

子どもたち一人ひとりに、お互いを尊重し合う心や思いやりの心、善悪を判断する力や社会のルールを身につけるなど、豊かな人間関係を築くことができる力を育みます。

21年度の取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

⑥ 人権教育の充実	進捗状況	☆☆
<p>○人権尊重の意識や態度を育成する学校教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の認識を深め、指導スキルの向上を図るための指導者用資料を作成し、研究協議会や管理職研修等で活用を促進。 [指導者用資料を活用した校内研修実施校の割合] H21 : 90.4% <p>○教職員研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小中高校で設置の人権教育校内組織を中心とした校内研修の充実に向け、各校種・地域別に33回の研究協議会等の実施やニーズに応じた講師派遣により教職員研修を改善充実。 [研修計画の策定率] 小 H20:42%→H21:80%、中 H20:31%→H21:71%、高 H20:58%→H21:67% <p>○授業や各種研修における視聴覚資料等の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民への教育・啓発を図る目的で県立図書館に視聴覚資料を計画的に整備。また学校においては、視聴覚資料の活用が少ないことから、内容の充実とさらなる活用の促進が必要。 <p>○市町が実施する研修会等への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての市町で人権教育に関わる学習講座等を開催しており、実践的な研修内容の提案や事業費の補助等を通じ市町を積極的に支援。 <p>○人権教育指導者の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や市町で人権教育を推進していく際のリーダーとなる指導者養成のための研修会を計画的に実施。 [人権教育指導者養成のための研修会参加人数] H20 : 727人→H21 : 457人 		
⑦ 道徳教育の充実	進捗状況	☆☆
<p>○各学校における道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全公立小・中学校においては道徳教育全体計画に基づき、プログラム、プラン集等の指導資料を活用した道徳授業や教育活動を展開。道徳の授業がない高校での取組の促進が必要。 <p>○教員の指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立小・中学校教員を対象とした道徳授業セミナーや研修会等を実施し、「アイデア集」等を活用した校内研修を実施。高校における取組の促進が必要。 [セミナーの参加状況] H20:200人(県内5会場(小3校,中2校))→H21:230人(県内5会場(小3校,中2校)) <p>○家庭や地域との連携による道徳教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業等において、授業公開や地域人材のゲストティーチャーとして活用する等、学校と家庭の連携による道徳教育の取組を着実に推進。 [道徳の授業公開をしている学校数] 小 H20:96.0%→H21:100% 中 H20:83.0%→H21:95.7% 		

⑧ 体験活動の充実	進捗状況	☆☆
<p>○学校や青少年教育施設における体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験や文化芸術体験等のほか、地域団体や青少年教育施設等と連携した体験活動等、ほとんどの学校で体験活動を積極的に実施。今後は、地域プログラムの開発等により参加機会のさらなる拡充を図ることが必要。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[青少年施設での宿泊学習実施状況] 小 H20:74%→H21:72% 中 H20:69%→H21:70%</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[「心の冒険・サマースクール」参加者数] 小学校チャレンジ H20:48人→H21:48人 ミニチャレンジ H20:16人→H21:16人</p> <p>○家庭や地域における体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・web等により各種体験活動の取組や教育効果を普及啓発するとともに、身近な地域における体験活動を促進するための「地域プログラム」「手引き」の作成に向けた取組を計画どおり実施。 <p>○専門的指導者の養成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21から体験活動研修会の回数を増やすとともに、PTAやおやじの会等関係団体への幅広い呼びかけにより着実に指導者を養成・派遣し、学校の体験活動を支援。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[体験活動指導者研修会参加者数] H20:118人→H21:179人</p>		

(2) 夢チャレンジ指標の状況

b

指標名		基準値 (H21.4.1)	現状値 (H22.4.1)	H24目標値	状況
I 人の気持ち分かる人間になりたいと思っている児童生徒の割合	小	91.5%	93.3%	増加させる	☆☆☆
	中	93.1%	93.5%		☆☆☆
II 各種教育手法の活用によるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいる小中学校の割合	小	—	84.5%	100%	—
	中	—	88.0%		—
III 人権教育視聴覚資料を活用して授業等を実施した学校の割合		—	15.3%	100%	—
IV 豊かな心を育む学習プログラムや体験活動推進資料を活用して道徳教育を実施した学校の割合	小	85.7%	100%	100%	☆☆☆
	中	71.5%	100%		☆☆☆
	高	—	14.5%		—
V ボランティア活動を実施している学校の割合	小	92.7%	85.6%	100%	☆
	中	84.8%	81.6%		☆
	高	—	69.4%		—
VI 体験活動等の専門的指導者数		499人	678人	900人以上	☆☆

評価

B

豊かな人間関係を構築できるよう、思いやりの心や規範意識の醸成を図るため、「人権教育」や「道徳教育」、「体験活動」に係る研修の充実や、教員の指導力の向上、各種教材の作成等の取組は、概ね順調に進捗している。

一方、「ボランティア活動を実施している学校の割合」は減少傾向にあり、こうした状況を踏まえ、今後は、道徳授業のない高校での計画的な取組や、「家庭教育の指針」を活用した家庭や地域と連携した「道徳教育」、本県独自のAFPYの活用等による「体験活動」の充実を図る必要がある。

重点プロジェクト名

4 子ども元気創造推進プロジェクト

《 推 進 方 向 》

「遊び・スポーツ」「食育」「読書」を一体的に取り組むなど、子どもたちの心と体の「元気」を創造し、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育みます。

21年度の取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

⑨ 体力向上の推進	進捗状況	☆☆
<p>○「体力テスト、生活習慣調査」等を踏まえた組織的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会を中心とした教材教具の開発や実践事例の「手引き」の活用促進等に努め、取組を開始した16年度からの向上は見られるものの、小学校における体力テスト及び運動習慣はH20年度に比較し低下。要因として生活習慣の乱れや「仲間」「空間」「時間」の不足があることを踏まえ、学校・家庭・地域が一体となった取組の一層の推進が必要。 <p>○学校における体育・スポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全市町が策定した「体力向上プラン」に基づき各学校が策定した「体力向上プログラム」を活用し、子どもの実態を踏まえ創意工夫した取組を促進するとともに、部活動の活性化を図るため、新たに小・中・高校で地域のスポーツ人材を活用した取組を推進。 <p>[参考体力向上プログラム作成率] H21:小82.0% 中63.5%</p> <p>[地域スポーツ人材の活用 (H21新規)] H21:小56校、中29校、高21校</p> <p>○家庭や地域と一体となった取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で取り組める具体的な運動プログラムをwebで提供する「チャレンジやまぐち」(H22web公開予定)の作成に向けた委員会を定期的に開催。 		
⑩ 食育の推進	進捗状況	☆☆
<p>○学校での計画的・組織的な食育の推進及び家庭や地域との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭配置校訪問等により、ほとんどの小・中学校で「全体計画」を作成し、また「食育だより」等により家庭・地域との連携を促進。今後は、朝食摂取率の向上など家庭での取組強化が必要。 <p>[食に関する指導の全体計画の作成率] H20 : 73.9%→H21:97.3%</p> <p>○学校給食の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭等による献立の工夫や各市町との連携により、地場産食材の活用や米飯給食の実施を促進。 <p>○栄養教諭・学校栄養職員の資質能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採用1、2年目の栄養教諭に対し重点的に指導するとともに、学校給食関係者に対しては、衛生管理に係る体制整備と資質能力の向上に向けた衛生管理講習会等を実施。 		

⑪ 健康教育の推進	進捗状況	☆☆
<p>○学校保健(保健管理・保健教育)の計画的・組織的な取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校で作成する学校保健計画及び保健室経営計画に基づき、養護教諭を中心とした組織的な保健指導や学校薬剤師との連携による学校保健状況調査等の学校環境衛生の取組を推進。 <p>[保健室経営計画の作成率] 小 H20:73.6%→H21:73.5%、中 H20:78.3%→H21:84.6%、高 H20:84.9%→H21:88.2%</p> <p>○現代的な健康課題の解決に向けた取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において保健だより等によりその時々最新の情報を家庭に直接提供し、また性に関する教育や「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」等を積極的に開催。校種により課題意識に差があることから、今後、校種に応じた具体的な取組方法を提示・啓発。 <p>[性に関する教育の年間計画作成率] 小H20:97.0%→H21:98.8%、中H20:97.6%→H21:98.8%、高H20:23.3%→H21:27.9% [「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」の実施率] 小H20:57.9%→H21:63.1%、中H20:75.2%→H21:85.1%、高H20:100%→H21:100%</p> <p>○教職員の指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の要請に基づき専門家を派遣するなど、メンタルヘルス等をはじめとする学校保健に係る校内研修をほぼ全ての学校で実施。 		
⑫ 読書活動の推進	進捗状況	☆☆
<p>○学校における読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中学校の9割の学校での全校一斉読書や「読書記録」「本のお勧めカード」など工夫を凝らした取組を推進。今後は、読書習慣の定着化や学校図書計画的な整備等が必要。 <p>[授業における学校図書館の計画的な活用状況] (学期に1回) ※ () は全国 小 H20 : 83.2% (77.8%) → H21 : 81.8% (78.8%) 中 H20 : 41.5% (47.6%) → H21 : 49.4% (46.4%) [学校図書館図書標準を達成している学校の割合] ※ () は全国 小 H20 : 36.1% (50.7%) → H21 : 34.4% (54.1%) 中 H20 : 26.2% (43.8%) → H21 : 33.1% (47.4%)</p> <p>○家庭や地域における子どもの読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立図書館等でのおはなし会の開催(年間約1,500回)や、読み聞かせ等を行う民間読書ボランティア団体の活性化など着実に進捗。 <p>○山口県子ども読書支援センターによる支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに配信したメールマガジンの登録者数の着実な伸びや公立図書館職員等の研修の実施に加え、民間読書ボランティアによる活動の活性化など実効性のある取組を実施。 		
⑬ 幼児期における取組の充実	進捗状況	☆☆
<p>○家庭や幼稚園での外遊び、食育、読み聞かせの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園職員を対象とした研修会や協議会を通じた啓発促進等により、県内幼稚園の大部分で園庭・園舎の開放や子育て講座など何らかの子育て支援を実施。 <p>○教職員等の指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児教育研究大会や研究協議会での事例発表や分科会における実践的な研究協議等を実施。園や地域により取組に差があることから、今後は、各地域等の実情に応じた開催の在り方を工夫し、指導力の向上につなげる必要がある。 <p>○就学前教育と小学校教育の連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的にも早い時期から取組を進めており、21年度においても小学校教員の幼稚園への派遣研修や合同保育・授業による子ども同士の交流活動を推進。 		

(2) 夢チャレンジ指標の状況

C

指標名		基準値 (H21.4.1)	現状値 (H22.4.1)	H24目標値	状況																		
I 体力テストの総合評価が平均以上の児童生徒の割合	小	71.8%	70.5%	75%以上	☆																		
	中	75.3%	76.3%	80%以上	☆																		
<table border="1"> <caption>体力テストの総合評価が平均以上の児童生徒の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> <th>H19年度</th> <th>H20年度</th> <th>H21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>66.2</td> <td>68.9</td> <td>68</td> <td>71.8</td> <td>70.5</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>72.4</td> <td>73.1</td> <td>73</td> <td>75.3</td> <td>76.3</td> </tr> </tbody> </table>						学年	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	小学生	66.2	68.9	68	71.8	70.5	中学生	72.4	73.1	73	75.3	76.3
学年	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度																		
小学生	66.2	68.9	68	71.8	70.5																		
中学生	72.4	73.1	73	75.3	76.3																		
II 体育の授業以外に毎日30分以上運動している児童生徒の割合	小	60.0%	59.8%	65%以上	☆																		
	中	56.4%	61.5%		☆☆																		
III 毎日朝食を摂っている児童生徒の割合	小	89.4%	90.4%	100%	☆																		
	中	85.7%	86.7%		☆																		
IV 米飯給食を実施している学校の割合 (週3回以上)		79.9%	82.1%	100%	☆																		
V 学校給食における地場産物の使用割合		45.0%	49.0%	50%以上	☆☆																		
VI 学校以外で月に1冊以上読書をしている児童生徒の割合	小	74.9%	75.6%	100%	☆																		
	中	93.3%	91.4%		☆																		

評価

C

知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成に向け、子どもたちの心と体の元気の創造を図る「遊び・スポーツ」、「食育」、「読書」等の取組は、概ね順調に進捗している。

一方、「体力テストの総合評価が平均以上の児童生徒の割合」や、「学校以外で月に1冊以上読書をしている児童生徒の割合」などは、一部低下傾向にあり、こうした状況を踏まえながら、今後は、「家庭教育の指針」の活用等による運動・読書習慣の定着や朝食摂取率の改善など、家庭と連携した取組の強化を図る必要がある。

重点プロジェクト名

5 きめ細かな指導体制づくり推進プロジェクト

《 推 進 方 向 》

子どもたちの発達段階に応じ、一人ひとりが抱える様々な教育課題に適切に対応できるように、きめ細かな指導体制づくりを推進します。

21年度の取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

⑭ 少人数教育の推進	進捗状況	☆☆☆
<p>○小・中学校における35人学級化の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学級実施の中学校に加え、新たに小学校1・2年の35人学級化を実施するなど計画的に整備。 <p>[実施状況] H20：小学校1・2年の一部 → H21：小学校1・2年の全学級 ※中学校は全学級実施済み</p> <p>○少人数指導（複数教員による指導・学習集団の編成）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数教育検討会議の開催や、先進的な取組事例や具体的指導事例等を示す「少人数指導ガイドライン」の作成（H22年度配布）など、計画的に取組を展開。 		
⑮ 校種間連携・一貫教育の推進	進捗状況	☆☆
<p>○校種間連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保・小、小・中、中・高における入学前情報交換会や推進協議会の開催など、推進体制を整備するとともに、実践事例を紹介するリーフレットの配布、校種間の人事交流、出前授業の実施など、様々な取組を積極的に展開。 <p>[中学校教員が授業参観した高等学校の割合] H20：68.8%→H21：64.5%</p> <p>[講師（大学教員）招聘の実施高校数の割合] H13：約30%→H21：約50%</p> <p>[研修交流等] 幼児教育長期研修：6名、小中学校教員の研修交流：19名、小中高校と総合支援学校の人事交流(85名)</p> <p>○中高一貫教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の実情や各学校の中高一貫教育のコンセプトに応じた教育課程等の工夫改善と特色ある教育活動を展開。今後の一貫教育の充実に向け、これまでの成果や課題の検証が必要。 <p>○学校間の連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校における宿泊体験学習や研修交流等は継続的に実施している地域があるものの、都市部における近隣の学校同士の連携などの取組が必要。 		
⑯ 生徒指導・相談体制の充実	進捗状況	☆☆
<p>○子どもの主体的活動等による好ましい人間関係づくり等の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの小中学校でAFPY（山口県独自の体験学習プログラム）等を活用した授業などを実施。今後は、「いじめ根絶運動」等の児童生徒の主体的活動を促進していくことが必要。 <p>[AFPY等体験活動実施校] H21：小学校 84%、中学校 88%</p> <p>[児童会・生徒会による主体的活動実施校] H21：小 15.9%、中 36.6%、高 1.2%、特 16.7%</p> <p>○問題行動や不登校の未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携推進校（40校）における小・中同一のスクールカウンセラーの配置、小学校版E A S Y（期待や不安に関する調査）の活用・中学校版の作成、少年リーダーズ活動など、未然防止や中1ギャップの解消等の課題に的確に対応した取組を実施。 <p>[平成21年度新設] 2室（山陽小野田市、美祢市）※柳井市において開設準備</p> <p>[少年リーダーズ活動の実施回数] H20：102回→H21：113回</p>		

○学校・家庭・地域が連携した体制づくり

- ・全中学校にスクールカウンセラーを配置するなど相談体制の充実を図るとともに、各地域に設置の地区青少年健全育成協議会等の定期的な開催を通じ、家庭・地域との連携体制を充実。

[中学校における延べ相談件数] H20 : 45, 116件 → H21 : 48, 277件

○やまぐち総合教育支援センターの相談・支援体制の充実

- ・20年度から配置の専門家（SSW、臨床心理士等）により、的確かつ柔軟に相談に対応するとともに、学校サポートチームを派遣し、学校の個別課題の解決に向け強力に支援

[相談件数] H20 : 1, 256件（来所相談850件 要請相談20件 電話相談386件）

→ H21 : 1, 439件（来所相談965件 要請相談38件 電話相談436件）

○緊急時の学校への支援体制の強化

- ・緊急事案発生時のメンタルサポートチームの迅速な派遣、警察とのネット問題連携システム（H21.1月構築）を活用した継続的なネット監視等により、様々な事案に対し適切に対応。

[メンタルサポートチーム派遣校数] 小学校：13校、中学校：11校、高等学校：6校、特支学校：2校

[いじめの態様のうち「パソコンや携帯電話での誹謗中傷」に関するもの]

H20 小学校：2件 中学校：40件 高校：9件 合計：51件

→ H21 小学校：0件 中学校：22件 高校：14件 合計：36件

⑰ 特別な支援が必要な児童生徒への指導・支援の充実

進捗状況

☆☆☆

○多様な障害に応じる総合支援学校における指導体制の充実

- ・個別の教育支援計画・指導計画（全校で作成）に基づく指導・支援及び地域の実情に応じた計画的な産業科の設置による職業教育の充実など、小・中・高等部一貫した指導体制を充実。

[総合支援学校高等部への産業科設置] H20 : 宇部総合、山口南総合、H21 : 田布施総合、下関総合

○幼・小・中・高等学校等における相談支援の実効性の向上

- ・地域コーディネーターの各学校への巡回訪問等による個別の教育支援計画作成の促進（作成率：72.4%（全国4位））や指導方法の工夫改善等により教員の実践力を強化。特に発達障害に関しては、指導方法の工夫改善に加え、周囲の幼児児童生徒との相互理解の取組を促進。

○ふれあい教育センターを中核とした相談支援体制の充実

- ・20年度から、ふれあい教育センターに専門性の高い相談支援及び集中訓練等を行う発達障害教育センター機能を付加するとともに、県内7地域の特別支援教育センターとふれあい教育センター間の連携強化により、適切かつ効果的な支援を継続的に実施。

○家庭や地域と学校との連携強化

- ・臨床心理士等を講師とした研修会や地域フォーラムの計画的な開催を通じ、保護者や地域への理解促進を図るとともに、先駆的な取組として、モデル校におけるボランティアバンクの設置、児童生徒とその保護者を対象とした集中サポートプログラムを実施。

○第2期実行計画の作成

- ・外部有識者からの専門的な意見収集を行うなど、計画的に作成作業を推進。

⑱ 教育支援機能の強化

進捗状況

☆☆

○教職員の教育活動の充実に向けた専門的支援の充実

- ・サテライト研修やスキルアップ研修の講座の増設や教育力向上指導員の増員による学校の実情に応じた支援を強化。また、教材や問題を作成しwebで提供するやまぐち学習支援プログラム等の活用を促進し、ほとんどの小・中学校で効果的に利用。

[活用協力校] H21 : 小 89校、中 45校

[全県活用率] H21 : 小 99%、中 94%

○教育情報の積極的な提供

- ・やまぐち総合教育支援サイトについて、学習指導用コンテンツを中心に充実。また、新たに教職員向け情報誌「News Letter ～山口県の教育～」を発行し、最新の情報を継続的に発信。

○子どもや親に対する教育相談・支援機能の充実

- ・子どもと親のサポートセンターにおけるSSW、臨床心理士等の配置や各地域の特別支援教育センターとの連携など、複雑化・多様化する相談事例に対応できる相談・支援機能を充実。

○地域の教育力の活用による学校支援

- ・「やまぐち教育応援団」登録事業所や学校支援ボランティアによる学校支援件数の増加、コミュニティ・スクールや学校支援地域本部事業による地域住民等の参画学校数の増加など、着実に地域の教育力の活用を促進。今後は、やまぐち教育応援団の登録数増加を図ることが必要。

[登録事業所から学校への講師等の派遣数] H20: 27校→H21: 54校

[登録ボランティア人数] H20: 3,187人(延活動人数15,790人)→H21: 4,330人(延活動人数38,745人)

⑱ 教職員の資質能力の向上

進捗状況

☆☆

○教職員評価の充実

- ・評価の透明性向上のため、新たに全教職員に対する評価結果の口頭開示や苦情相談窓口を設置するなど制度改善を推進。今後は、教職員一人ひとりのよさと課題の把握を図る制度としての実効性を高めるため、面談や評価者研修等の充実を図る必要がある。

○教職員研修の充実

- ・「フォローアップ(3年次)研修」(H22実施予定)の計画を策定。また、中堅教員の資質向上を図るため「中堅教員研修」を実施するなど、効果的・計画的な研修を推進。

○学校内の人材育成

- ・基本研修における校内研修の推進や学校評価、授業評価を教職員評価の中に取り入れるなど、学校内での組織的な取組を強化。

○優れた人材の確保

- ・評価の観点、評価方法及び選考方法の公表や理数科教員の採用枠の拡大など、教員採用選考試験の改善を計画的に推進。一方で、教育実習の充実など、大学との連携による養成段階での取組の充実が必要。

○意欲や能力、実績に応じた人材活用

- ・校長・教頭候補者ともに、推薦と志願を併用した管理職選考試験を本格実施するとともに、公募型人事異動制度の定着、校種間・地域間人事交流の実施など、幅広い人材活用を展開。

[小中高と特支間交流] H21: 45人→H22: 53人 [小中学校の地域間交流] H21: 249人→H22: 211人

[公募型人事異動] H21: 公募校数45校・出願者数25人→H22: 公募校数48校・出願者数23人

⑳ 高校生の県内就職対策の充実

進捗状況

☆☆

○就職相談支援の充実

- ・新たに県内就職支援員8名を女子の就職の多い学校へ配置するなど支援体制を充実。厳しい雇用情勢を踏まえ、引き続き、最新の雇用状況に基づく就職ガイダンスの早期実施等によるきめ細かな対応が必要。

[就職ガイダンスの実施] H21: 1・2年生で実施(20校)、3年生1学期に実施(21年度7月末までに63校)

[県内就職支援員] H21: 生徒との個別相談(258回)、教員・生徒・保護者への情報提供(延べ456回)

○組織的な求人開拓の強化

- ・就職指導専門員や新たに配置した県内就職支援員及び各学校の校長、進路担当等による組織的な情報収集や求人開拓、さらには、5月を求人確保促進月間として、求人確保依頼訪問等を行ったが、求人開拓数は雇用情勢の悪化等により減少。

[就職指導専門員] H21: 企業訪問数(延べ4,191社)、開拓人数(延べ744人)

(H20: 企業訪問数(延べ5,546社)、開拓人数(延べ1,324人))

○就職関係機関との連携強化

- ・新たに高校生緊急就職対策PTを設置し、関係機関と連携した対策を実施するとともに、県内就職促進協議会においても新たな企業への参加依頼を大幅に増加。協議会の参加企業は減少しており、今後は、参加依頼の更なる強化に加え、開催地域や回数等の工夫等が必要。

[県内就職促進協議会(県内7地区)参加企業] H20: 240社→H21: 216社

(2) 夢チャレンジ指標の状況

b

指標名		基準値 (H21.4.1)	現状値 (H22.4.1)	H24目標値	状況																		
I 35人学級化実施率	小	90.4%	94.2%	100%	☆☆																		
	中	100%	100%	100%	☆☆☆																		
II 校区内の全ての小学校と連携教育を実施している中学校の割合		100%	100%	100%	☆☆☆																		
III スクールカウンセラーの中学校への配置率		100%	100%	100% (現在の体制を維持)	☆☆☆																		
IV 不登校児童生徒の割合 (1,000人当たり)		12.8人	12.3人	20%以上減少 (9.8人)	☆																		
V いじめの認知件数(1,000人当たり)		5.7件	3.7件	減少させる	☆☆☆																		
VI 暴力行為の発生件数(1,000人当たり)		6.1件	4.9件	減少させる	☆☆☆																		
VII 個別の教育支援計画の作成率<特別支援教育>		67.4%	72.4%	100%	☆																		
VIII 総合支援学校の産業科生徒の就職率		100%	44.4%	100%	☆																		
IX 総合教育支援サイトの閲覧数 (HPアクセス数/年)		31,090件	29,604件	50,000件以上	☆																		
X サテライト、リクエスト研修の受講者満足度		81.1%	77.9%	90%以上	☆																		
XI やまぐち教育応援団の数		142事業所	513事業所	4,000 事業所以上	☆																		
XII 高校生の就職決定率		97.6%	95.6%	100%	☆																		
<table border="1"> <caption>高校生の就職決定率 (H17年度～H21年度)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>山口県 (%)</th> <th>全国 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17年度</td> <td>97.6</td> <td>92.8</td> </tr> <tr> <td>H18年度</td> <td>98.3</td> <td>93.9</td> </tr> <tr> <td>H19年度</td> <td>98.4</td> <td>94.7</td> </tr> <tr> <td>H20年度</td> <td>97.6</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td>H21年度</td> <td>95.6</td> <td>91.6</td> </tr> </tbody> </table>						年度	山口県 (%)	全国 (%)	H17年度	97.6	92.8	H18年度	98.3	93.9	H19年度	98.4	94.7	H20年度	97.6	93.2	H21年度	95.6	91.6
年度	山口県 (%)	全国 (%)																					
H17年度	97.6	92.8																					
H18年度	98.3	93.9																					
H19年度	98.4	94.7																					
H20年度	97.6	93.2																					
H21年度	95.6	91.6																					
XIII 高校生の県内就職率		79.8%	82.0%	85%以上	☆☆																		

評価

B

一人ひとりが抱える教育課題に適切に対応できるよう、きめ細かな指導体制づくりに向け、35人学級化の推進等による少人数教育の推進や、教職員の資質能力の向上、指導や支援体制の充実を図る取組は、順調に進捗しているものの、昨今の経済状況を背景に、高校生の就職決定率や、総合支援学校における産業科の生徒の就職率については、厳しい状況にある。

今後は、求人開拓の強化など、緊急的・短期的な就職対策だけでなく、1・2年の生徒や保護者へのガンダンス実施や、総合支援学校における小・中・高等部の一貫した指導体制など、早い時期からきめ細かな就職支援に取り組むことが必要である。

また、不登校対策については、小中連携推進校の拡充など未然防止や中1ギャップの解消等に向けた取り組みを強化していく必要がある。

重点プロジェクト名

6 学校の安心・安全と活力推進プロジェクト

《 推 進 方 向 》

子どもたちが安心して教育を受けることができるよう、学校施設の耐震化など、安心・安全な教育環境づくりに取り組むとともに、複雑・多様化する教育課題に的確に対応できるよう、学校の運営体制や指導体制等の充実に図り、活力ある学校づくりを進めます。

21年度の取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

㉑ 学校施設の耐震化の推進	進捗状況	☆
<p>○県立学校の耐震化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険性の高い施設の優先的な耐震化に取り組むなど、概ね計画どおり耐震化を推進しているが、全国順位は低調であり、設計業務や工事の前倒しなどにより耐震化の加速化を図ることが必要（公立高校 H20:40位→H21:40位 特別支援学校 H20:32位→H21:31位）。 <p>○市町立小・中学校、私立学校の耐震化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町立小・中学校は、耐震化促進会議による事業推進の円滑化や国の経済危機対策の財源活用等により、耐震化率は前年度比4.9ポイント上昇したものの全国順位は47位。 私立学校は、県助成等により耐震診断の実施棟数が大幅に増加したものの耐震化工事に取り組む学校が少なかったことから、耐震化率は低位で推移しており、加速化が必要。 		
㉒ 学校安全の推進	進捗状況	☆☆
<p>○教職員の危機対応力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 危機管理セミナーや防犯・防災教育研修会の実施による教職員の危機対応力の向上に加え、7月21日豪雨災害を踏まえ、「危機管理マニュアルの作成指針」を作成・配布し、全ての公立学校でマニュアルを改善。 <p>○保護者・地域と連携した学校安全の取組強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校安全に関する情報をwebページや携帯メール等により発信するとともに、スクールガード連絡会議を全小中学校区で実施するなど、保護者・地域との連携を強化する取組を実施。 [独自のwebページの開設校] 小中高：58%（うち学校安全に係る内容掲載 43%） <p>○子ども・地域ぐるみによる「防犯を含む生活安全」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールガードによる見守り活動を全ての小中学校区で実施するなど、地域住民の参画による取組は順調に進捗。一方で、安全マップの作成など児童生徒の主体的活動の推進が必要。 [児童生徒の活動による安全マップの作成] H21：小中 24% <p>○自他の命を守る「交通安全」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ふれあい夢通信や防犯教育研修会等を活用した危険予測学習(KYT 学習)の取組啓発、県警と連携したスクールサイクルリーダー活動など実践的な取組を展開。 [KYT学習実施校率] 小中高：66% <p>○専門家と連携した「防災（災害安全）」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門家と連携し、新たな教材開発や防災教育研修会を実施するとともに、年32回実施した防災出前授業では、大学教授等の専門家による授業を実施し、児童生徒の防災対応能力を育成するなど実効性の高い取組を計画的に実施。 		

23 県立高校将来構想の推進

進捗状況

☆☆

○より質の高い高校教育の展開を目指した特色ある学校づくりの推進

- ・単位制の導入、学科改編等による多様な学習ニーズに応える学校づくりや定時制・通信制における異なる課程間の単位認定など、各学校の実情に応じた学校づくりを計画的に展開。定員割れが継続している高校については、在り方の検討を加速化することが必要。

[単位制の導入] 20校

[定時制・通信制併習の実施校] 12校

○現行の再編整備計画（平成20年度～平成23年度）の着実な推進

- ・「天布施農工高校」、「大津緑洋高校」の開校に向けた準備や防府商業高校への工業科の設置に向けた施設整備など計画的に推進。

○新たな再編整備計画（平成22年度～）の推進

- ・平成22年度～平成25年度計画については、平成21年度中の公表を予定していたが、高校授業料実質無償化など国の制度改革の状況等を踏まえ、平成22年9月に策定。

24 学校運営の活性化

進捗状況

☆☆

○目標管理型の学校評価の充実

- ・21年度に全ての小・中・高校においてPDCA手法による目標管理型の学校評価を実施。また、児童生徒や保護者等の意見の反映、評価結果等の積極的な公開など全体的に取組を促進。

	自己評価	外部アンケート	学校関係者評価	公表率		
				自己評価	外部アンケート	学校関係者評価
公立小学校	100%	99.1%	98.8%	100%	100%	94.7%
公立中学校	100%	97.5%	98.8%	100%	99.4%	88.6%
県立学校	100%	100%	100%	100%	100%	97.8%

○管理職のリーダーシップによる組織的な学校運営

- ・従来の推薦に加え、新たに志願者方式を導入するなど管理職選考の改善を計画的に実施。今後、中堅教員研修の計画的な実施や管理職登用後の教職大学院派遣研修など、体系的な人材育成及び学校の管理運営者としての資質能力の向上に向けた取組を充実していく必要がある。

○校内組織体制の改善

- ・業務改善の取組を学校評価の評価項目として位置付けるなど、組織的な取組により業務の効率化に向けた校務分掌や業務内容の見直しを促進。

25 私学の振興と修学支援の充実

進捗状況

☆☆

○私学助成の充実

- ・運営費補助単価を前年度比で初の引き下げを行うも、その水準は全国でトップレベルを維持。

○地域に開かれた幼稚園づくりへの支援

- ・園庭開放や親子登園を行った幼稚園の割合は20年度に比べ若干下回っているが、預かり保育や障害のある幼児の受入れなど、大半の園が地域に開かれた取組を積極的に実施。

[預かり保育実施園数の割合] 93.7%

[障害のある幼児の受入れに対する助成園数の割合] 54.3%

[地域開放実施園数（園庭開放、親子登園等）の割合] 78.3%

○経済的理由により修学が困難な生徒に対する支援の充実

- ・(財)山口県ひとづくり財団を通じた高校生等への奨学金の通常の貸し付けに加え、家計急変世帯への緊急採用枠を設定するとともに、学校法人に対しては私立高校生の授業料等の軽減事業に要する経費の補助を行うなど、景気・雇用情勢の悪化を踏まえた適切な措置を実施。

[奨学金貸与実績] 大学：528人 国公立高校：608人 私立高校：1,354人 専修学校：69人

[私立高校生の授業料等の軽減事業に要する経費補助] 実績：2,098人 (20.8%)

(2) 夢チャレンジ指標の状況

C

指標名	基準値 (H21.4.1)	現状値(H22.4.1)	H24目標値	状況
I 県立学校の耐震化率	57.2%	63.0%	90%以上	☆
II 市町立小・中学校の耐震化率	48.1%	53.0%	80%以上	☆
III 私立学校(小・中・高)の耐震化率	28.0%	30.1%	80%以上	☆
IV 携帯メールによる情報配信システム整備率(小・中・高・特)	39.0%	42.6%	80%以上	☆
V 児童生徒の交通事故件数	51件	49件	減少させる	☆☆☆
VI スクールガードを組織している小・中学校区の割合	100%	100%	100%	☆☆☆
VII 特色ある学科及び指導方法を取り入れた私立学校の割合	85.0%	85.7%	100%	☆
VIII 子育て支援を行っている私立幼稚園の割合	80.0%	78.3%	93%以上	☆

評価

C

活力ある学校づくりに向け、学校評価の充実や県立高校の再編整備計画の推進など、学校運営、指導体制の充実を図る取組は、着実に進捗しているものの、学校の安心・安全な教育環境を確保する学校施設の耐震化については、全国に比べ取組が遅れている。

今後は、県立学校について、目標を1年前倒しし、平成23年度末までに耐震化率90%以上を達成するよう、設計業務や工事を前倒しで実施するなど、取組を加速化させる必要がある。

また、市町立小・中学校については、危険性の高い施設の耐震補強の早期実施等による「耐震化推進計画」の前倒しを働きかけるとともに、設計施工業者の不足や、構造上の複雑な施設など、課題を抱える市町の実情に応じたきめ細かな指導・助言を行うことにより、市町の取組を支援していく必要がある。

重点プロジェクト名

7 県民総参加による教育推進プロジェクト

《 推 進 方 向 》

子どもたちが、様々な社会体験活動等を通して健やかに成長することができるよう、地域社会が教育活動に積極的に参画できる体制を構築し、社会全体で教育の向上に取り組みます。また、県民が社会の中で充実した生活を送ることができるよう、生涯学び続けることができる環境づくりを進めます。

21年度の取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

26 地域と学校の一体的な取組の促進	進捗状況	☆☆☆
<p>○地域と学校の一体的な取組を進めるための体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域への積極的な働きかけにより、学校運営協議会設置校や学校支援地域本部事業実施校が着実に増加するとともに、安全パトロールや学習支援など地域住民等が学校を支援するボランティア活動も大幅に増加。 <p>[学校運営協議会設置校] H21.4 : 27校→H22.4 : 36校 [学校支援地域本部事業実施校] H21.4 : 38校→H22.4 : 44校 [ボランティア活動数] H21.3 : 3,243回→H22.3 : 8,147回</p> <p>○地域の教育資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習情報誌や学校便り等による県・市の効果的な情報発信により、新たなボランティア参画が増え、「やまぐち教育応援団」や大学等による学校支援活動が充実。 <p>[大学生・高専生ボランティアによる教育支援状況] H21.9 : 実施 全17校 [授業支援実施] H21:12校 [活動の支援窓口設置] H21:11校</p> <p>○地域人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーター研修会やボランティア活動推進のためのハンドブックの作成・活用等により、コーディネーター、ボランティアの登録人数（配置人数）及び活動実績が着実に増加。 <p>[学校支援コーディネーターの配置人数] H20 : 41人→H21 : 59人 [ボランティア登録人数] H20:3187人→H21:4330人 [ボランティア活動数] H20:3243→H21:8147</p>		
27 子どもの育ちを地域で支える取組の推進	進捗状況	☆☆
<p>○地域ぐるみで子どもの育ちを支える取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民が参加しやすいよう、回数や開催地の地域性を考慮した効果的な研修会を実施し、PTA活動、おやじの会、青少年団体などの関係団体の取組を促進。 <p>○放課後子ども教室・児童クラブの充実と連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会等によるコーディネーターの養成や関係機関との情報交換、効果的なプログラム開発により、計画どおり順調に教室が設置されるとともに活動も充実したが、今後、児童クラブとの連携促進に向けた具体的な取組の推進が必要。 <p>[山口県放課後子どもプラン活動レシピ集作成] H19 : 117プログラム→H21 : 195プログラム</p>		
28 生涯学習の推進	進捗状況	☆☆☆
<p>○生涯学習情報の提供の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習情報提供システム「かがやきネットやまぐち」や図書館ネットワークシステムによる学習コンテンツ・講座情報、県立図書館の蔵書データの提供等、様々な生涯学習情報を積極的に発信。 <p>[かがやきネットやまぐち講座情報登録件数] H20 : 10,672件→H21:12,404件</p>		

○多様な学習機会の提供

- ・生涯学習推進センターにおいて、小学生から一般までを対象とした様々な学習機会を提供。また、大学からの情報提供件数も増えているが、企業やNPO等の情報を増やすことが課題。

[大学からの情報件数] H20: 39件→H21: 48件

[企業、NPOからの情報件数] H20: 519件→H21: 349

○学習成果を生かす活動の推進

- ・各種フォーラムや情報誌「かがやきネット通信」等により、学習成果を生かし地域貢献できる活動の場や先進事例を紹介し、学習機会の提供から学習成果を生かす活動の場の提供まで一貫した支援を実施。

29 世界スカウトジャンボリー等を通じた青少年教育の充実

進捗状況

☆

○青少年の交流促進に向けたネットワーク等の充実

- ・ボーイスカウト山口県連盟主催事業の青少年教育団体3団体との共同実施や文化交流活動を通じた国際交流団体との連携など、ネットワークの構築に着手。今後は、連携団体の増加を図るとともに、世界スカウトジャンボリーに向けた具体的な活動を展開していくことが必要。

[連携した国際交流団体] H20: 0→H21: 5団体(青年海外協力隊OB等)

○両大会への支援体制づくり

- ・支援組織「第23回世界スカウトジャンボリー日本委員会」の設立に向け、日本連盟が「日本連盟準備委員会」を設置(日本委員会はH22.6月設置)。プレ大会(日本ジャンボリー)の開催が平成25年と間近に迫る中、日本連盟や県連盟の具体的な動きや国の明確な取組方針を踏まえながら、会場となるきらら浜の基盤整備など開催準備を着実に進めていく必要がある。

(2) 夢チャレンジ指標の状況

b

指標名	基準値(H21.4.1)	現状値(H22.4.1)	H24目標値	状況
I 地域の人材による組織的な学校支援活動が行われている小・中学校数	60校	73校	100校以上	☆☆
II 放課後子ども教室数	143教室	155教室	180教室以上	☆☆
III 生涯学習情報システム閲覧件数 (HPアクセス数/年)	81,480件	118,686件	140,000件以上	☆☆

評価

B

社会全体による教育の推進に向け、「学校運営協議会」や、「学校支援地域本部」、「放課後子ども教室」、さらには「やまぐち教育応援団」など、地域社会が学校の教育活動に参画し支援できる仕組みづくりは、着実に進捗している。

また、生涯学習のための情報提供システムや、多様な学習機会の提供の充実により、生涯学習の環境づくりも進んでいる。

今後は、こうした仕組みを積極的に活用するとともに、生涯学習の成果を生かしながら、学校と地域が一体となって、学校教育活動を支援していく必要がある。

さらに、世界ジャンボリーの開催は、社会教育活動の活性化に資するものであり、着実に開催準備を進めていく必要がある。

重点プロジェクト名	8 家庭教育応援プロジェクト
-----------	----------------

《 推 進 方 向 》

家庭生活を通して、子どもたちの基本的な生活習慣や倫理観、社会性等が身に付くよう、家庭の教育力の向上を図ります。

21年度の取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

30 家庭教育の充実	進捗状況	☆☆
-------------------	------	----

○意識啓発・情報提供の推進

・広く県民への啓発を図るため、「家庭の元気応援キャンペーン」の展開や家庭へ直接情報を提供する「家庭教育の指針」の作成(H22配布)に着手する一方で、テレビ家庭教育番組「はつらつ山口っ子」の視聴率は低下しており、内容の充実、見直しが必要。

[「はつらつ山口っ子」平均視聴率] H20 : 7.8%→H21 : 2.7%
 (小・中学生保護者の視聴状況 : 見たことがある : 56.4% 見たことがない : 40.7%)

○保護者への学習機会の提供

・家庭教育講座を実施する市町への支援や「おやじの会」による「おやじの学校」の開催、企業等と連携した出前講座の開催など家庭教育への参加を促進。参加人数等の増大を図るため、PTA指導者研修会の開催地域や回数の工夫などによる参加機会の増大が必要。

[市町における家庭教育講座の実施] H20 : 1,746回→H21 : 1,759回
 [PTA指導者研修会参加者数] H20 : 460人→H21 : 400人

31 相談・支援体制の充実	進捗状況	☆☆
----------------------	------	----

○家庭教育支援者の養成

・養成講座の計画的開催により家庭教育支援者は順調に増加しており、市町の家庭教育講座や相談支援をはじめ、地域の子育てや家庭教育支援の活動に積極的に参加。

[修了者の活動状況] 地域で活動している : 88.8% 今後協力できる : 88%

○地域における家庭教育支援の充実

・一部の市町で、保健師や保健推進員、講座修了者等の専門家による家庭教育支援チームを設置し、定期的な講座、相談等を実施。また、子育て県民運動推進会議等との合同会議により連携強化の取組を進めるなど、家庭教育支援体制づくりのモデル的取組に着手し、今後は、全県的な取組として普及させていくことが必要。

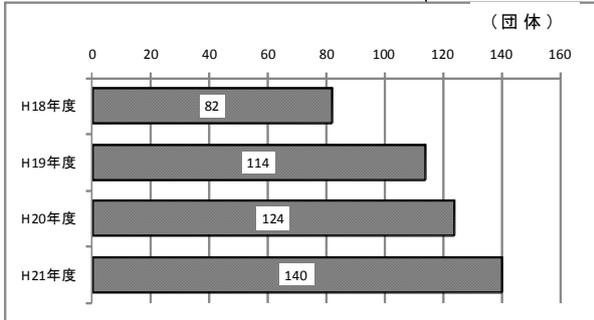
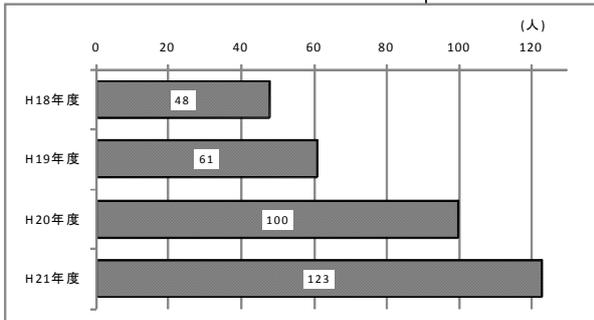
○専門機関による相談・支援の充実

・「子どもと親のサポートセンター」に配置しているスクールソーシャルワーカー等の専門家の支援による困難事例の好転や、地域子育て支援の拠点となる「元気子育て支援センター」等の設置を大幅に促進するなど、支援体制を充実・強化。

[SSW・臨床心理士の対応派遣件数] H20 : 134件→H21:122件
 「元気子育て支援センター数」(県単独事業) H20 : 5箇所→H21:15箇所

(2) 夢チャレンジ指標の状況

b

指標名	基準値 (H21.4.1)	現状値 (H22.4.1)	H24目標値	状況
I おやじの会の活動団体数 	124団体	140校	170団体以上	☆☆
II 企業等での家庭教育出前講座の受講者数	1,708人	1,872人	2,500人以上	☆
III 家庭教育アドバイザー養成講座修了者数 	100人	123人	180人以上	☆☆
IV 地域子育て支援センター設置数	99箇所	110箇所	130箇所以上	☆☆

評価

B

家庭の教育力の向上に向け、家庭教育アドバイザー養成講座修了者、地域子育て支援センターは着実に増加しており、家庭教育を支援する人づくりや拠点づくりなど相談・支援体制の整備も順調に進捗している。

今後は、「おやじの会」等を対象とした学習の充実や、テレビ家庭教育番組の内容の見直し、「家庭教育の指針」の活用等により、効果的な意識啓発、情報提供など、家庭教育の充実に取り組む必要がある。

重点プロジェクト名

9 文化にふれあい文化に親しむ環境づくり推進プロジェクト

《 推 進 方 向 》

子どもたちの豊かな感性を育み、文化への理解や文化活動への参加を促進するため、優れた文化にふれあう機会の充実を図るとともに、本県の多彩な文化財や伝統・文化の保存・継承と活用の促進を図ります。

21年度の取組状況

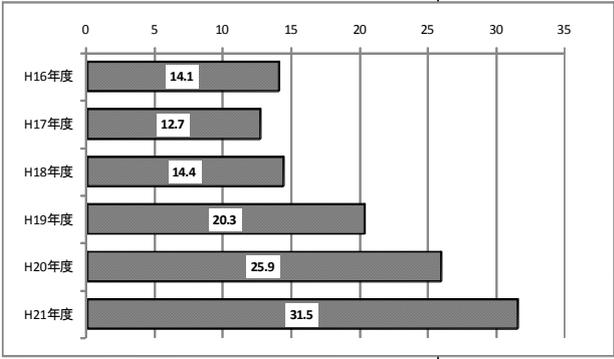
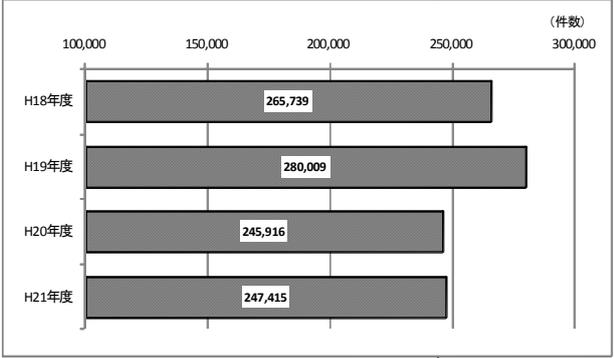
(1) 重点取組事項の進捗状況

a

32 文化にふれあい親しむ環境づくりの推進	進捗状況	☆☆☆
<p>○学校現場への優れた芸術にふれる機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演内容の見直しを行い、新たに邦楽公演・能楽公演・雅楽公演を追加するなど、質的充実を図った。また、「ふるさとやまぐち伝統文化公演」の新設(H22)に向けて計画的に準備。 [学校芸術文化ふれあい事業の実施状況] H20：118公演→H21：148公演 <p>○文化活動の発表の機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県中学校総合文化祭や県高等学校総合文化祭を毎年開催するとともに、優秀な団体を全国大会へ派遣するなど様々な機会を提供。また、高校生の作品の中学校総合文化祭での展示やすべての中学校への高文連会報の配布など、両文化祭の交流も促進。 [県総合文化祭参加状況] 中学総文 H20:2188人→H21:2425人 高校総文 H20:3220人→H21:3240人 (参考) H21全国総文上位の成績 [高 校] 囲碁部門:団体優勝、将棋部門:女子団体3位、放送部門(朗読部門):優秀賞 [中学校] 合唱部門:優秀賞 <p>○県立文化施設等との連携による企画展や講座等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立美術館と連携した学校美術展覧会をS22年から継続して開催(H21から新たに巡回展も開催)し、また、博物館や図書館・文書館での専門性を活かした講座等については内容を充実。 [学校美術展覧会入場者総数] H20:2,845人→H21:7,106(本展4856人、巡回展2250人) [学校美術展覧会出品点数] 約70,000点、入賞1,300点、展示総数700点 [博物館での教育講座参加人数] H20：839人→H21：3,250人 		
33 文化財の保護と活用	進捗状況	☆☆
<p>○新たな文化財の指定と保存・継承の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町教委との連携を密にして、近代和風建築総合調査等の実施により計画的に新たな文化財の指定を行うとともに、保存修理についても、計画どおり実施。 <p>○文化財を活用した学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財愛護教室の開催や新たに開催した埋蔵文化財センターの県内巡回速報展など、文化財に触れることのできる機会を拡充。一方で、学校等での学習・体験機会の充実・拡充を進めていくことが必要。 <p>○特別天然記念物「八代のツル」の渡来数の回復</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デコイを用いた誘因方策や出水市の協力による飼育ツルの放鳥方策などの渡来数回復方策の確立に目途。また、周南市と連携したツルのネグラ整備により1980年代に比べて生息環境が改善されるなどこれまでの調査研究に一定の成果。 <p>○「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界遺産への登録推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係6県12市と協議会を開催し国内外の専門家と現地視察を行うなど、保存管理計画の24年度の完成に向け計画どおり実施。また、東京と長崎でシンポジウムを開催し全国へアピール。 		

(2) 夢チャレンジ指標の状況

b

指標名	基準値 (H21.4.1)	現状値 (H22.4.1)	H24目標値	状況														
I 学校で芸術の鑑賞を行った児童生徒の割合	25.9%	31.5%	増加させる	☆☆☆														
 <table border="1"> <caption>学校で芸術の鑑賞を行った児童生徒の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16年度</td> <td>14.1</td> </tr> <tr> <td>H17年度</td> <td>12.7</td> </tr> <tr> <td>H18年度</td> <td>14.4</td> </tr> <tr> <td>H19年度</td> <td>20.3</td> </tr> <tr> <td>H20年度</td> <td>25.9</td> </tr> <tr> <td>H21年度</td> <td>31.5</td> </tr> </tbody> </table>					年度	割合 (%)	H16年度	14.1	H17年度	12.7	H18年度	14.4	H19年度	20.3	H20年度	25.9	H21年度	31.5
年度	割合 (%)																	
H16年度	14.1																	
H17年度	12.7																	
H18年度	14.4																	
H19年度	20.3																	
H20年度	25.9																	
H21年度	31.5																	
II 国及び県指定文化財件数	587件	588件	595件	☆														
III 県文化財Webページ閲覧件数 (HP アクセス数 /年)	245,916件	247,415件	300,000件	☆														
 <table border="1"> <caption>県文化財Webページ閲覧件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18年度</td> <td>265,739</td> </tr> <tr> <td>H19年度</td> <td>280,009</td> </tr> <tr> <td>H20年度</td> <td>245,916</td> </tr> <tr> <td>H21年度</td> <td>247,415</td> </tr> </tbody> </table>					年度	件数	H18年度	265,739	H19年度	280,009	H20年度	245,916	H21年度	247,415				
年度	件数																	
H18年度	265,739																	
H19年度	280,009																	
H20年度	245,916																	
H21年度	247,415																	

評価

B

子どもたちが優れた文化にふれあう機会の充実や、文化活動への参加促進に向け、能楽や雅楽をはじめ伝統芸能の公演など、学校芸術文化ふれあい事業の充実に取り組むとともに、県中学校総合文化祭や、県高等学校文化祭の開催、全国大会への派遣など、文化にふれあい親しむ環境づくりは、着実に進捗している。

また、県民共有の財産である文化財の保存・継承を計画的に推進するとともに、新たな文化財の掘り起こしも進んでいる。

今後は、多様な県民ニーズ、学習ニーズを踏まえながら、各地域における伝統文化公演の実施や、文化財を活用した学習機会の提供など、文化にふれる機会の充実や、文化財保護の意識の向上を図る必要がある。

重点プロジェクト名	10 「おいでませ！山口国体」等を契機とした県民スポーツ振興プロジェクト
-----------	--------------------------------------

《 推 進 方 向 》

平成23年に開催される「おいでませ！山口国体」等を契機とした競技力の向上や学校体育・スポーツの充実、豊かなスポーツライフの推進など、県民スポーツの総合的な振興を図ります。

21年度 of 取組状況

(1) 重点取組事項の進捗状況

b

34 県民全体がスポーツに親しむ環境づくり	進捗状況	☆☆
------------------------------	------	----

○スポーツへの関心の高揚

- ・エンジョイスports月間における全市町での124行事の実施や「県民スポーツの日」イベント等を通じ、様々な形でスポーツに親しむ場を提供したが、参加者数はほぼ横ばい。また、市町のスポーツ推進計画の策定や我がまちのスポーツづくりについては、今後、取組を加速化することが必要。

[エンジョイスports月間の行事への参加者] H20:108行事74,015人→H21:124行事59,689人(全市町)
 [「県民スポーツの日」イベントの参加者] H20:3,313人→H21:4,488人
 [ウォーキングを学ぶ指導者研修会参加者数] H20:336人→H21:308人

○スポーツに親しむ環境づくりの推進

- ・クラブマネージャー資格取得者は着実に増加しており、各地域の総合型地域スポーツクラブの設立に向けた取組は概ね順調に進捗。地域のスポーツ振興の中心となるボランティアリーダーについても計画的に養成し、リーダーの啓発・呼びかけによりボランティア数が拡大。

[クラブマネージャー養成講習会参加者数] H20:82人→H21:110人
 [クラブマネージャー資格取得者(総数)] H20:147人→H21:190人
 [スポーツボランティアリーダー養成講習会参加者数] H20:3,224人→H21:3,318人

○山口国体等を契機とした県・市町の連携による計画的・総合的なスポーツ振興の推進

- ・22年度開催の「スポーツ振興審議会」及び「やまぐちスポーツ文化育成対策特別委員会」での議論を踏まえ、国体後等のスポーツ振興策について具体的な検討を開始。

35 競技力の向上	進捗状況	☆☆
------------------	------	----

○優秀選手の育成・強化

- ・トップスポーツクラブや強化指定校での選手強化、小学生を対象にしたジュニアアスリートアカデミーの開催による選手発掘、育成・強化に積極的に取り組み、国体での入賞数は大きく伸びたが、総合優勝を目指し、さらに強化していくことが必要。

[強化指定校] 33競技49校94部 [トップスポーツクラブ] 18競技23クラブ
 (国体では強化指定校16部、トップスポーツクラブ6チームが入賞)
 [スポーツ医科学サポートセンター利用競技者数] H20:1,107人→H21:3,852人

○指導者の育成・確保

- ・ナショナルコーチなどの実績を有する専門家による講習会の開催や、選手・指導者への直接指導を定期的に行うとともに、運動部活動の活性化を図るため外部指導者を増員。

[指導者招聘による講習会開催状況] H20:35競技→H21:34競技
 [外部指導者活用状況] 中学校 H20:26人→H21:29人 高校 H20:44人→H21:53人

○高い競技水準の維持・定着

- ・国体強化指定選手、国内トップレベルの指導者等によるスポーツ教室(座学及び実技指導)を定期的実施するとともに、競技力向上拠点として企業や地域のクラブを指定し、選手の育成・強化を推進。

[企業や地域のクラブの指定数] 18競技23クラブ (H21年度国体: 6クラブ入賞)

○競技スポーツ振興への気運の醸成

- ・メダル栄光・アスリート栄誉賞の授与や報道機関を通じた選手の活動状況の集中的な情報発信、「国体ジャンプアップフェスティバル」と「県レクリエーションフェスティバル」の同時開催による国体の効果的な周知等、国体や競技スポーツへの気運の醸成に向けた取組を積極的に展開。

③⑥ スポーツ拠点施設の整備

進捗状況

☆☆☆

- ・維新百年記念公園陸上競技場、山口きらら博記念公園水泳プール等の国体関連施設について、計画どおり整備を推進。

(2) 夢チャレンジ指標の状況

C

指標名	基準値 (H21.4.1)	現状値 (H22.4.1)	H24目標値	状況
I スポーツを行った県民の割合	62.1% (H18)	—	70%以上	—
II スポーツボランティアリーダーの数	1,323人	1,417人	1,500人	☆☆
III 総合型地域スポーツクラブの設置数	29箇所	33箇所	50箇所	☆
IV 公認スポーツ指導者数	321人	345人	400人	☆☆
V 国体における総合順位	35位	28位	1位 (H23)	☆

評価

C

山口国体等の開催を契機とした本県のスポーツの振興に向け、スポーツへの関心を高めるイベントの実施や、総合型地域スポーツクラブの育成、スポーツボランティアの育成など、県民がスポーツに親しむ環境づくりは、順調に進捗している。

また、山口国体での総合優勝を目指したジュニアからの一貫指導・育成システムによる選手の育成・強化や、指導者の育成確保など、競技力の向上を図る取組は、着実に進んでいる。

今後は、こうした山口国体等の開催を契機に高まったスポーツへの関心や、これまで培ってきた大会運営ノウハウや選手育成システム、優れた選手・指導者等を生かしながら、県民がいつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らす生涯スポーツ社会の実現につなげていけるよう、その推進体制づくりについて検討する必要がある。